



合唱祭 田高生の実力に感動

校長 海發 真一

2月18日（土）、第12回合唱祭を大田区民ホール・アプリコで開催しました。1、2年生の12クラスが日常の練習の成果を発揮し、元気いっぱいに歌声を披露するとともに、ホームルームの団結をより強固なものにしたことを、大変嬉しく思います。

2月8日に発行された合唱祭新聞には、「音楽は気持ちを運ぶ船のようなもので、技術的なことよりも気持ちが音に乗っている歌声には力を感じる」と記されていました。当日のホールでは、生徒が心をひとつにして響かせた歌声は大変強く、「流石、田高生だ」と我が生徒を誇る気持ちでいっぱいになりました。

しかし、ここにたどり着くまでに、練習でなかなか人が揃わない、歌唱にみんなの気持ちがこもらないといった悩みや苦労がどのクラスにもあったのではないかと推察します。合唱は40人も人間が協働してひとつの作品を創り上げる作業ですので、全員が本気になって気持ちをひとつにしていけないとよい作品に仕上がりません。途中、先生の手を借りる場面があったかも知れませんが、最終的に生徒自らの力で状況を修正し、当日の完成にもっていった心意気は高く評価できるものです。審査委員の先生からは、「歌を聴衆に届けることを楽しむこと、熱い気持ちをもって音楽を伝えることが大切です。鑑賞する態度を含め生徒のまとまりがよく、一体となっているクラスが上位にきています」と講評がありました。合唱を聴衆の心に届けたいという熱い思いをクラス全員が共有することで、何倍もの集団の力となり迫力が増すのでしょう。

閉祭式で合唱祭実行委員長の生徒から、「合唱祭を通して目標に向かって努力した経験は、進路希望実現に向けた勉強をはじめ今後の人生に役立つ、また、失敗から学ぶことも多い」とお話がありました。実行委員長の生徒は、本質をついたよいお話をしてくれたと思います。

1、2年生ともに、高校卒業後の進路希望実現に向け日々の学習に取り組んでいきますが、学校行事やホームルーム活動といった特別活動と学校の勉強には、その方法において共通点があります。

教科と特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）、部活動は車の両輪の関係と言われ、ともに大切な活動ですが、集団活動である特別活動には、望ましい集団が個を育み、個の成長が望ましい集団を形づくるといった双方向の大きな機能があります。学校における勉強も同様で、生徒一人一人が大学進学という共通の目標に向かって勉強に取り組むことで、よりよい学習集団が形成され、また、切磋琢磨できる仲間が存在をはじめとする集団の力によって個々の生徒の資質・能力が向上するという相乗効果を期待することができます。

「受験は団体戦」という言葉をよく耳にしますが、同じ志（こころざし）をもつ仲間が互いに高め合う集団の雰囲気、個の成長にとって大切だという意味です。合唱祭同様、同じ目標に向かってともに頑張る仲間を大切に、互いに志気を高めてください。

また、失敗から学ぶという謙虚さも自己を向上させる上で不可欠なものです。うまくいかなかった経験からその理由や背景を学習し、工夫や改善に生かすことは、成功体験の数を増やすことにつながります。「失敗しないことが最大の失敗」という言葉のとおり、行動を起こさなければ失敗しないで済む代わりに、得るものもありません。うまくいかなかった経験があるからこそ向上心を奮い立たせ、人は大きく成長できるのだと思います。



卒業式を前にして

副校長 牛込 俊裕

この前の新聞に自動ブレーキ車減税へと報じられていました。この背景には高齢運転者の事故防止があります。また最近では自動車の自動運転がマスコミで報じられています。今回は船舶の自動運行について、1年生を引率する大学研究室訪問に先立ち、東京海洋大学の先生に特別講義としてご教示いただいたことをもとに報じます。

今から約30年前に同大学で、航法の応用と開発として人工衛星からの電波を利用するロランCの活用について教えていただきました。この研究は現在ではGPSとして発展し、その後お伺いしたときには、東京湾の運行管理システムや、物流支援システムの開発に進展しています。現在、パソコンで宅配便を検索すると、瞬時に荷物の場所を確認できるのがそれに当たります。今回お伺いできたのは、位置情報をもとにした船舶の自動運行技術の開発です。この研究には背景から教えていただくことができました。

我が国の物流は海外との場合には海運が99.7%、国内の場合には海運が43.9%を担っています。一方で高齢化にともない運航を担う人材不足が進んでいます。また自動運行技術の開発は欧州が世界をリードしていますが、これに対して同大学が中心となり、産業界と共同研究を進めていることを知りました。目標は2025年の実用化です。

実用化で目指しているのは自律運航、人間が指示して機械が自動判断する方法です。具体的には、システムが人間に様々な情報を提供し、それに応じて人間が判断したことをシステムが支援して運航します。基本的には人間の判断を重要としたシステムです。これが進展すると船に乗ることなく陸上からの操船が可能になりますが、今までとは違う操船技術を習得する必要があります。機械が人間の代わりになるのではなく、私たちはより高度な知識を身に付ける必要があります。そのための人材育成を含めて研究は進められています。

少子高齢化が進み、社会構造が変わると言われています。今回は船舶の自動運行をもとに考察しましたが、必要なことは変化に対応できる力を身に付けることです。在校生のみなさんは、田高生として基礎・基本を満遍なく身に付けてください。そして卒業するみなさんはこれまでの学びを生かして、次の学びのステップへ進み、専門性を高めて社会の一員として活躍してください。

進路指導部 進路行事 実施報告

進路指導部 遠山 久也

■大学説明会 10月12日(木) 6・7時限目

1・2年生を対象に「大学説明会」を実施しました。参加大学16校は以下のとおりです。

公立大学 都留文科大学・東京海洋大学・東京学芸大学

私立大学 学習院大学・北里大学・國學院大学・成蹊大学・中央大学・東京女子大学・東京都市大学・東京理科大学・東洋大学・法政大学・武蔵大学・明治学院大学・立教大学

2年生は16校から自分の選択した2校の説明を聞きました。説明会では、各大学の特色を大学案内の冊子やスライドなどを用いてわかりやすく説明していただきました。学部学科のカリキュラムや入試方法、受験情報、学生生活などの内容について、生徒はメモをとるなど、興味深く聞いている姿が印象的でした。近づいてくる受験に向けて、自分の進路についての考えを深める機会となりました。

1年生は16校から選択した1校の説明と、中央大学の入試センターの方による進路講演を聞きました。進路講演会を通して、大学進学の意味について考え、次年度の科目選択やその先にある進学に対する意識改革のきっかけになったことと思います。

今回の大学説明会を通して、生徒一人一人が自分の進路について改めて考え、目指す大学に向けてモチベーションを高められました。

■大学別入試説明会

3年生の希望者を対象に各大学の担当者に来ていただきました。実施した大学は、駒澤大学・成蹊大学・専修大学・東京都市大学・明治学院大学です。説明を聞き、生徒は大学の方に直接質問や相談をするなど、受験校について熟考する機会となりました。

■平成31年度大学入試センター試験

1月19日(土)・20日(日)に、平成31年度大学入試センター試験が行われました。今年度は約20

0名が受験し、1月21日（月）に本校で自己採点をしました。

■3年生公務員ガイダンス 4月13日（金）・20日（金）、5月11日（金）・18日（金）、6月8日（金）・15日（金）・22日（金）、7月6日（金）、9月4日（木）

公務員試験受験希望者に対し、公務員の職務の内容や公務員試験に向けての受験対策などについて、ガイダンスが行われました。

＜今後の予定＞

■卒業生合格体験談 3月18日（月）

3年生から大学合格体験談を話していただく予定です。先輩からの話を聞き、より一層受験に対する意識を高めることとなります。受験日から逆算して1年間のスケジュールを立てましょう。勉強方法やアドバイスなど参考にしてください。

チーム田園調布として進路指導部も全力で生徒をサポートしていきます。来年度もどうぞよろしくお願い致します。

一年間を振り返って

生活指導部 荻原 秀明

平成最後の年となった今年、田園調布高校が得たものは何だったのだろうか。生活指導部関連の行事では、クラブ紹介、体育祭、夏季合同合宿、ぼろにあ祭、合唱祭。運営や進行など生徒主体の活動が見られた。特にリーダーとして活躍したのは、部長会、実行委員会、委員会のメンバーである。また、各クラスでの自主的な協力がこれらの行事を支えているのは事実である。まさに、この動きが「伝統」であり、今なお継承されていることが「田園調布高校が得たもの」だろう。生活信条「誠実 敬愛 自主 自律」を大切に学校生活を送って欲しいものです。

合唱祭を終えて

第1学年 都竹 もみの

先日、1年生として最後の学校行事である合唱祭が行われました。69期生にとってはすべてが初めての経験で、合唱練習期間に「初めての合唱祭！」とソワソワしている生徒をかわいらしく思いながらも、この行事が終わったらもう1年間が終わるのか…と時の流れの速さを感じました。放課後のクラス練習を見てまず感じたことは、生徒の戸惑いでした。中学校で経験してきた合唱祭をイメージしていた生徒が多く、自分たちで主体的に合唱を作り上げていくことに迷っている様子でした。場所と時間は用意されているけれど、内容はすべて自分たちで決めなくてはならない。音楽の先生からの御指導をいただきさえすれば、自分たちで先生に時間をつくってもらわなくてはならない。協力してくれない人や帰ってしまう人がいても、自分たちで解決していかなければいけない。そんな自主性が求められる環境で、多くの生徒が悩み、そして成長していきました。

あるクラスでパートリーダーを務めた生徒の感想を紹介します。

「私がパートリーダーをする中で気づいたことは、ただ“練習をしよう”と声をかけても人は動かないということです。何をするか、いつからやるか、どこでやるか、具体的なことを手早く伝えなければいけないとわかりました。」

クラス全員が彼女のような経験ができたわけではありませんが、今回の合唱祭を通して生徒一人一人が様々な角度から感じた「気づき」は、とても大きなものだと思います。来年度の合唱祭はもちろんのこと、今後の学校生活にも活かしていけることを願っています。また、今回の合唱祭では1年A組が素晴らしい歌声を響かせ、見事に金賞を受賞しました。努力が結果と結びつくことは本当に素晴らしいことだと思います。他のクラスも、それぞれのよさを本番の舞台で発揮することができ、思い出に残る素敵な合唱祭になりました。



そしてあっという間に69期生も2年生となります。この1年間をきちんと振り返り、田高生としての2年目を新たな気持ちで始める準備をしていきましょう！

合唱祭を終えて

第2学年 藤井 実

合唱祭の練習が始まったころは「本番はどうなるのだろう？」と不安な思いの方が強かったのですが、各クラスきっちりと仕上げ、鑑賞している側を感動させる合唱をつくりあげました。

2学年は月曜日に7時間目まで授業、火曜日は7・8時間目に自由選択が入っているので、練習時間が思うようにとれず各クラスとも苦勞していました。一方であるクラスは、1年生に向けてお手本を見せ、いろいろなアドバイスをしたということもあったようです。クラスで協力しながら合唱をつくりあげ、それぞれのクラスの色を出した合唱祭で生徒たちは成長したと確信しています。2学年最後の行事は、3月18日に球技大会が予定されています。クラスで声を掛け合い、熱いゲームになることを期待しています。

合唱祭が終わり、本格的に受験の準備が始まります。1月に「第一志望届」を提出してもらいました。目標に向かってコツコツと積み重ねて受験を乗り切りたいと願っています。3月14日（木）にスタディサポートを受験します。これは受験に向けての基礎学力が身に付いているかどうかを確認する試験です。事前に「活用ブック」という問題冊子が配られ、それを解いた後試験に臨みます。受験に基礎学力は欠かせません。広い基礎の土台をつくり、その土台の上に高い応用力を積み上げてほしいと願っています。

～67期生の皆さん、卒業おめでとう！～

第3学年 吉田 宣浩

67期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

つい先日、入学式を迎えたばかりのような気がしますが、あっという間に3年の月日が流れ、卒業を迎えることになりました。

縁あって、私も学年主任として67期生の仲間に入れていただき、ホームルームを始め、各種行事や学習活動に取り組んで来ましたが、月日の経つのは早いものです。

この原稿を書いている時点では受験状況が厳しく、思うように合格の知らせが来ない生徒も多く、ハラハラしながら日々を過ごしている状況ですが、最終的には、進学・就職する人も、来年の受験に向けて捲土重来を期す人も、本校での経験をぜひ人生の糧にさせていただきたいと思います。もちろん、本校を卒業したあとも人生は常に勉強です。与えられた場所でしっかりと活動ができるよう、頑張ってください。

そして、68期・69期生の皆さん、4月にはそれぞれ進級して先輩になります。下級生から見て、頼もしく思えるような先輩の姿を見せてください。勉強はもちろんのこと、学校行事や委員会活動、部活動など、それぞれの場所での活躍を期待しています。

経営企画室からのお知らせ

1・2年生について来年度の給付型奨学金のご案内をしております。

給付型奨学金のパンフレットは先日2月19日に配布しましたが、申請書につきましては本校経営企画室窓口まで取りに来ていただくこととしております。

今年度は奨学金の受給に係る申請書の記入と奨学金利用申請書（多欄式）の記入だけで、保護者の方の収入状況確認のための書類は原則として必要ありません。